

主体的に考え道徳的实践力を育成する放送番組の活用

－「時々迷々」の活用を通して－

水野宗市（宮崎市立国富小学校）・堀田博史（園田学園女子大学）

概要：NHK学校放送番組「時々迷々」は、主人公が様々な悩み考える場面に直面し、「道徳的葛藤」にさいなまれながら「迷う気持ち」をドラマ形式で描いている。そのため、児童が自分に置き換えて考えたり、日常生活を振り返ったりできる。本番組を活用し、思考ツール（吹き出し）に自分が思ったことや感じたことを書き出し、ポイントを絞った話し合う授業設計を計画し継続的に実践を進めることで、道徳的実践力の育成することができた。

キーワード：道徳的実践力、番組活用、思考ツール、話し合い活動、継続的活用

1 はじめに

平成27年7月に、文部科学省から出された「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」第1章 総説」では「考える道徳」、「議論する道徳」への転換を図ることの重要性を述べている。考える道徳を実践していくためには、「話し合いの充実」が必要と考える。そのためには、児童一人一人に「自分の考えや思い」をもたせなければならない。

これまでの自分自身の道徳教育の実践を振り返って見たときに、なかなか十分な話し合い活動を実践できていないと痛感している。その要素として、次のような点がある。

○ 児童一人一人に自分なりの考えや思いを十分にもたせることができていない。

○ 「副読本」を活用して「単に読ませるだけの指導」になったり「読ませることに時間がかかりすぎ、考えを深め合う時間が不足」していた。

中学年向け学校放送番組（道徳）「時々迷々（ときどきまよまよ）」は、だれの気持ちの中にも潜む「迷う気持ち」をドラマ形式で描く番組である。毎回、道徳的価値を考慮した様々なストーリーにより、児童にとって葛藤する場が設定されている。児童は、番組を視聴することでこれまでの道徳的体験とも関連させながら思考することができる。副読本のように「文章を読み取る」という構えも必要なく、番組に出てくる児童の表情や言葉から、心情をつかみやすく、感じることで児童一人一人が同じ土俵に立ち自分なりの思いや考えをもつことができる。そして、各自の思いや考えを出し合う中で、「葛藤する場面」を話し合いのポイントとして提示することで、道徳的価値と関連して主体的に話し合い活動を充実させ、道徳的実践力を育成できると考えた。

2 研究の概要

（1）番組を活用し「話し合い活動」を位置づけた学習指導過程の工夫

児童の「話し合い活動」を支える要素として大事なことは、児童一人一人が「自分なりの考えや思いをしっかりともつこと」である。また、その「考えや思い」を整理して発表することが大事である。そして、児童の発表を生かしてその時間のねらいである内容をポイントとして「話し合い活動」に結びつける学習指導過程の工夫を考えた。具体的には、次の流れとなる。

- ①番組名、主人公名を知らせ、意欲を高めて番組を視聴する。
- ②視聴後の感想をワークシートに整理し、全体場で発表して交流する。
- ③発表内容を板書で整理して、話し合いのポイントを整理する。
- ④話し合い活動を行い、全体で意見交換をする。
- ⑤本時学習をまとめる。

（2）焦点化のためのワークシートの工夫

これまでの実践から、「考えてごらん」だけでは、自分の考えをきちんと整理できなかつたり自信がなく発表まで至らなかつた。児童の実態を考慮したときに、頭で思ったり考えたりすることをすぐに口に出すことはまだ難しい児童もいる。そのため、話し合い活動を少しでも積極的に行うためには、番組を視聴して児童が考えたり思ったりしたことを一度整理して書き記す段階が必要であると考えた。

そこで、今回、児童の思考をその後の話し合い活動に活用できるように「自分の考えを焦点化する」

思考ツールを用いることとした。具体的には、「そうだよね！（共感）」「どうして？（疑問点）」「自由に書いてみよう」という3つの吹き出し（発達段階を考慮して吹き出しの形態を活用した）を取り入れ、児童が自分の立場を明確にしながらかける形とした。

図1 ワークシートの例

番組視聴後、このワークシートに書き込んだ内容を児童一人一人が発表し、共感部分・疑問部分を黒板上で整理し、話し合い活動のポイントを整理することとした。

図1 ワークシートの例

番組視聴後、このワークシートに書き込んだ内容を児童一人一人が発表し、共感部分・疑問部分を黒板上で整理し、話し合い活動のポイントを整理することとした。

(3) 年間を通した番組の継続活用

表1 道徳年間計画

平成27年度道徳年間計画

月	週	価値項目	活用番組名
4	2	1-(2) 努力・忍耐	【副読本】の活用
	3	2-(1) 礼儀	【副読本】の活用
	4	3-(1) 生命尊重	【副読本】の活用
5	1		
	2	3-(2) 自然愛・動物愛護	人は木になれない
	3	4-(5) 郷土愛	河童と山あらし
	4	2-(2) 思いやり、親切	【副読本】の活用
6	1	4-(1) 規則尊重・公德心	声なきメッセージ
	2	2-(1) 礼儀	ほくのおじさん
	3	1-(1) 自立・思慮・節度ある生活	もうひとりのほく
	4	2-(3) 友情、信頼、助け合い	友達ラッキンク
7	1	1-(3) 善悪の判断と勇気	オリエンテーリング
	2	4-(3) 家族愛	【副読本】の活用
	3	4-(4) 愛校心、楽しい学校	クラスの旗
9	1	4-(2) 勤労・奉仕	おしごとこわい
	2	1-(1) 自立・思慮・節度ある生活	【副読本】の活用
	3	4-(3) 家族愛	おいしいちゃんが来た
10	4	1-(4) 正直、明朗	わたしは歌手になりたい
	1	1-(5) 個性伸長	いつわりのラブレター
	2		
	3	2-(2) 思いやり、親切	ほつん
	4	3-(1) 生命尊重	その目をさませ!
11	1	1-(3) 善悪の判断と勇気	【副読本】の活用
	2	3-(3) 感動と敬虔	涙ながしまくる
	3	2-(3) 友情、信頼、助け合い	タカツクくんの字
	4	2-(4) 尊敬・感謝	【副読本】の活用
12	1	1-(2) 努力・忍耐	まねっこレミ
	2	4-(2) 勤労・奉仕	働かざる者
	3	4-(1) 規則尊重・公德心	50円玉ひとつ
1	2	4-(6) 愛国心、国際理解	【副読本】の活用
	3	1-(4) 正直、明朗	折れた翼
	4	1-(1) 自立・思慮・節度ある生活	【副読本】の活用
	1	2-(4) 尊敬・感謝	ウソ・ワソ・ウソ
2	2	2-(2) 思いやり、親切	真理アンドワネット
	3	4-(1) 規則尊重・公德心	ハイパーぞうじ長!
3	1	4-(4) 愛校心、楽しい学校	ケイスケのいない学級会
	2	3-(1) 生命尊重	ハースターの空

番組活用において、注意すべきポイントの一つとして、児童が番組を活用したスタイルの授業に慣れるために、何回かの学習を繰り返し行っていく必要がある。これまでの経験上では、5回程度の学習を進めていくと、児童は学習の流れをつかむことができ、スムーズに学習をすすめることを実感している。校内の道徳の年間計画と番組内容の価値項目を考慮して、表1のように、「道徳年間計画」を立てた。毎回、同じ「学習指導過

程」において、継続して繰り返し実践を進めていくことで、「学習の進め方」に慣れ、「葛藤する場面」を中心に、児童が主体的に「より深く話し合いを進めること」につながると考えた。

(4) 効果の検証

上記の3つの観点に沿って実践を進めていくことで、ねらい通りの「考える道徳」に関する効果が得られるのかを判断することが必要と考えた。道徳は実践上、なかなか数値として検証することは難しいと考えられるが、できるだけ客観的に検証を行えるように、次の3つの点について実施することとした。

① 児童の自己評価アンケートの変化

事前（4月実施）と事後（12月実施）にアンケート調査（4段階評価）を行い数値的变化が表れるか検証する。アンケート項目については、「学びのイノベーション事業」で実施された「アンケート項目」を基本とし、全国で放送教育推進を行っている教員数名との意見交換をしながら表2のように、大項目4（学習一般、思考・話し合い、番組活用、道徳内容）17項目で設定することとした。

表2 自己評価アンケート

【12月 アンケート】

	思う	まあまあ	あまり	思わない
学習一般				
1. 楽しく学習することができたと思いますか	4	3	2	1
2. 学習にしっかりと取り組むことができたと思いますか	4	3	2	1
3. 勉強したことしたことをもっと調べてみたいと思いますか	4	3	2	1
4. 学習のめあてをしっかりとつかむことができたと思いますか	4	3	2	1
思考・話し合い				
1. じっくりと考えることができたと思いますか	4	3	2	1
2. 自分の考えや意見をしっかりと発表することができたと思いますか	4	3	2	1
3. 学習した内容を友だちや先生に、きちんと説明できたと思いますか	4	3	2	1
4. 友だちと協力して、学習することができたと思いますか	4	3	2	1
5. 友だちと教えあうことができたと思いますか	4	3	2	1
6. グループでの学習に、進んで参加することができたと思いますか	4	3	2	1
番組活用				
1. 放送番組を使った学習は、楽しいと思いますか	4	3	2	1
2. 放送番組を使った学習は、わかりやすいと思いますか	4	3	2	1
3. 放送番組を使った学習をもっとしたいと思うと思いますか	4	3	2	1
道徳内容				
1. 「いいなあ」「さんねんだなあ」など、心が動くことはありましたか?	4	3	2	1
2. 「それは本当に良いことなのかな?」と考えることができましたか?	4	3	2	1
3. 学習を今後の生活に役立てようという気持ちになりましたか?	4	3	2	1
4. 自分自身の気持ちにあらはれて考えることができましたか?	4	3	2	1

② 授業中における児童の発言や授業後の感想

授業中の「発言」やワークシートに書かれた「授業後の感想」から、児童にどのような変化があったかを見る。特に、日常の学習の様子と比較しながら、個人や全体の変化等を見ていくこととした。

③ 同僚による客観的な授業評価

番組の活用の仕方や授業の進め方を通して、児童の様子などを客観的に判断してもらうために、同僚の教師に授業参観をお願いし聞き取り調査を行うこととした。

3 実際の様子

6月3週に実施した授業について、学習の様子を具体的に示す。

【価値項目】 節度・節制・自主・自立

【活用番組】 「もうひとりのぼく」

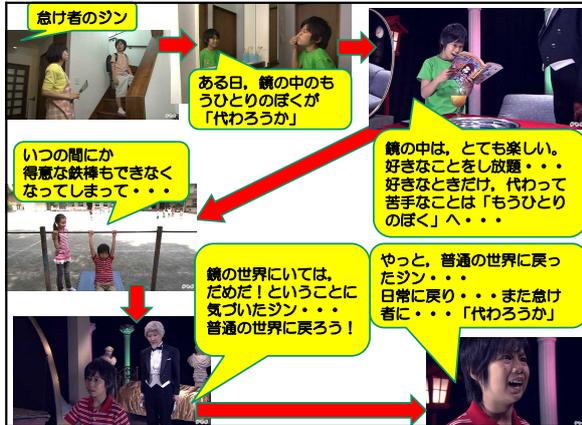


図2 「もうひとりのぼく」番組内容

【番組内容】

怠け者のジン君が、「鏡の世界」の「もうひとりのぼく」と入れ替わり、面倒くさいことや苦手なことなどをすべて任せてしまい、自分のはのんびりと楽な生活を送るといったファンタジー要素を含む内容である。(図2参照)最終的には「このままではいけない」と気づき、鏡の世界をでるジン君。しかし、しばらくして、また「代わるか」と誘われてしまう。

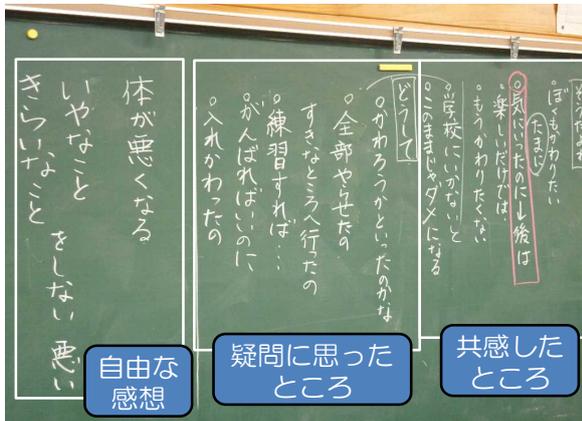


図3 当日の板書

【話し合い活動の様子】

番組視聴をした後に、児童が考えたことや思ったことを板書のように整理して(図3 板書内容参照)発表した。「共感したところ」は、「わたしも、時々宿題嫌って思う。」「ぼくもうらやましいと思った。」などが出た。「疑問に思ったところ」では、「どうして鏡の世界にいったの?」「どうして後から鏡の世界を出ようと思ったの?」などが出た。また、「自由な感想」では、「きれいな

ことを「もうひとりのぼく」にだけやらせるのはダメ。」「もうひとりのぼく」はいなくていい。」「したくないこともしないとだめだね。」などが出た。児童は、「自分のことはきちんとしないとイケない」という判断はきちんとできているが、「わかっているけどできない」部分を出し合い、原因を話し合っていくことが大事だと考えた。

そこで、本時のポイントとなる主発問「鏡の世界があつたら、あなたは行きますか、行きませんか?」を投げかけ、グループで話し合った後、全体での話し合いを行った。

「行く」「行かない」と約半数に分かれて、お互いの考えを出し合った。特に、「めんどくさい」「のんびりできそう」など、児童の本音の部分を大事にしながら進めた。そこで、まとめとして、「鏡の中は心の中と同じ」ということを押さえ「人間は、わかっているけど心が負けてしまうことがあるので、負けない心をもつことが大事である」とまとめた。

4 考察

(1) アンケート調査による変化について

19回の実践後(12月)、アンケート調査を行い4月の調査と比較した。4月と12月の平均値の違い(伸び)と標準偏差を数値として示した。また、「t検定」を行い有意差について確認した(** p<.01, * p<.05)。その結果を示したのが表3である。

表3 アンケート調査の比較(4月, 12月)

【アンケート】(** p<.01, * p<.05)		4月 平均値	12月 平均値	標準 偏差	有意差
学習 一般	1. 楽しく学習することができたと思いますか	3.25	3.78	0.68	**
	2. 学習にしょうけんめい取り組むことができたと思いますか	3.22	3.53	0.72	**
	3. 勉強したことにしたことをもっと誇ってみたいと思いますか	3.06	3.31	0.85	
	4. 学習のめあてをしっかりとつかむことができたと思いますか	3.47	3.47	0.68	
思考・ 話し合い	1. じっくりと考えることができたと思いますか	3.00	3.56	0.78	**
	2. 自分の考えや意見をしっかりと発表することができたと思いますか	2.84	3.66	0.98	**
	3. 学習した内容を友だちや先生に、きちんと説明できたと思いますか	2.88	3.38	0.86	**
	4. 友だちと協力して、学習することができたと思いますか	2.94	3.50	0.82	**
	5. 友だちと教えあうことができたと思いますか	3.19	3.41	0.86	
	6. グループでの学習に、進んで参加することができたと思いますか	3.16	3.47	0.86	
番組 活用	1. 放送番組を使った学習は、楽しいと思いますか	3.75	3.91	0.49	
	2. 放送番組を使った学習は、わかりやすいと思いますか	3.63	3.69	0.59	
	3. 放送番組を使った学習をもっとしたいと思うと思いますか	3.69	3.88	0.57	
道徳 内容	1. 「いいなあ」「さんねんだなあ」など、心が動くことはありませんか?	3.38	3.47	0.77	
	2. 「それは本当に良いことなのか?」と考えることがありましたか?	3.19	3.22	0.89	
	3. 学習を今後の生活に役立てようという気持ちになりましたか?	3.03	3.38	0.92	*
	4. 自分自身の気持ちにあてはめて考えることができましたか?	2.72	3.34	0.97	**

17項目のうち、8項目について「有意差」が見られた。特に、今回の実践の成果としては、一番の目的とした「考える道徳」のための「思考・話し合い」において、「じっくりと考える」「しっかりと発表する」「きちんと説明できた」「協力して学習することができた」という4つの項目で有意差が見られたことが、本実践の効果としてあげられる。また、道徳的実践力の育成につながる「今

後の生活に役立てるという気持ち」「自分自身の気持ちにあてはめて考える」ことで有意差が見られた点は評価できる。

(2) 児童の反応や感想より

○【A児について】

日常的に学習意欲は高く発表する姿もよく見られる。しかし、発表内容では、的を得た発言は難しい児童である。番組を楽しみながら視聴する姿が見られ、発表内容についても、本児なりにポイントを把握し気持ちをまとめた発言が見られた。

○【全体の様子から】

主人公の表情や言葉等から、児童一人一人が自分なりの感想をもつことができ、積極的に学習に取り組む姿が見られた。道徳の授業においては、少なくとも1回は全員が発表した。また、ワークシートに書き込んだ内容等を参考にしながら、積極的にグループで話し合う姿が見られた。

(3) 同僚の感想より

同学年を担当している3人の同僚に授業を見てもらい聞き取り調査を行った。

(番組について)

副読本と異なる「わかりやすさ」「インパクト」は確かにあったと思う。子どもが自分だったらと入り込みやすい構成になっていて、揺れ動く感情ももちやすい内容に制作されていると思った。

(授業について)

自分の考えをもつ、それを周りの人と話し合うことが大事だと再認識した。子どもたちが、自分の思いを進んで伝えようという雰囲気が見られた。集中して学習に取り組み、よく考えていた。継続して活用していることで学習の進め方にも慣れ、スムーズにワークシートに書き込んでいた。

(自由な感想)

番組が15分なので、話合いの時間や書く時間が短くなってしまう。最後のまとめが難しい。

5 結論

児童の反応や感想から、一人一人が自分の考えや思いをもち、主体的に学習に取り組む姿が様々な場面で見られた。同僚の感想からも、「番組のわかりやすさ」により児童の主体的な学習を支えていることが実感できた。アンケート調査の比較からは、「自分の考えや意見をしっかりと発表することができたか」「自分自身の気持ちにあてはめて考えることができましたか」という項目において、大きな伸びが見られた。

道徳の授業において、放送番組を継続して活用した学習を行うことで児童を主体とした学びを構

築することができ、道徳的実践力の育成につながったと考える。

6 今後の課題

番組活用において、特にポイントになるのは「時間の活用」である。1単位時間(45分間)の中で、番組視聴が15分である。残りの30分の中で学習をどう組み立てていくかを考えていくことが難しい。そのためには、番組から児童がどのような反応をするのかを見通し、ポイントなる主発問を明確にしておく必要がある。ただし、児童の実態によっては、その回でねらっている「道徳的価値」と少しずれた点に目が行く場合も考えられる。児童の考えや思いを大事にしながら、臨機応変に対応していく力も必要となる。

今後、「特別の教科である道徳」に向けて「教科書」の導入も取り上げられている。「教科書」の基本は「読み物資料」となるであろうと予測される。児童に読み物資料を読み取る力を育成していくことも考えることも重要である。同時に、今回活用した「映像資料」も用いながら、児童の実態に応じ、バランスよい指導を行い「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」ことを目標としていくことが大事である。

【参考文献】

- 1)「小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編」p1~p2, p77~p82(文部科学省 平成27年7月)
- 2)「メディア変革期にみる教師のメディア活用 ~2013年度NHK小学校教師のメディア利用に関する調査から~」p55~p68(宇治橋裕之・小平さち子 NHK放送文化研究所 平成26年7月)
- 3)「学びのイノベーション事業 実践研究報告書」第6章 (文部科学省 平成26年4月)
- 4)「小学校学習指導要領 道徳編」p23~p30(文部科学省 平成20年8月)
- 5)「なぜ教室にはテレビがあるのか!?!」p38~p39(埼玉県放送教育研究開発委員会 平成27年7月)